

第72回 国立大学図書館協会総会 研究集会
学生のための大学図書館を問い直す：
ユーザーエクスペリエンスの視点から

九州大学からの話題提供

九州大学図書館長
理事・副学長（情報，DX担当）内田誠一

専門：AI, データサイエンス,
画像情報学（含む OCR）

九大図書館のご紹介 in 10秒

是非ポスターに
お越しください！

アクティブラーナーを応援する 九大図書館の取り組み

九州大学附属図書館
Kyushu University Library

2025年6月19-20日
第72回国立大学図書館協会総会 研究集会

図書館TA(Cuter)と協働する授業外学習支援

九州大学のティーチング・アシスタントとして認定を受けた大学院生が、中央・理系・医学図書館で活動。(令和7年度前期 計20名)
「図書館といっしょに九大らしい自ら学び続ける”人”をつくる」「Cuter自身が理想のアクティブ・ラーナーになる」ことをミッションとして掲げ、授業や科目の枠組みを超えた、幅広い学習支援を行っている。



行動指針

図書館職員
Cuterの声から学ぶ
研修の機会を提供する
必要な資源を提供する



図書館TA(Cuter)
人をつなぐ、自ら成長する
図書館と情報を活かす
好奇心や創造性を刺激する



図書館TAの
活躍状況とか

● 学習相談

中央・理系図書館に学習相談デスクを設置。レポートやプレゼンの準備、授業の課題、進学や研究室のことなど、学生からの多様な相談に対応



● 講習会

レポートの書き方講座・実験レポート講座・プレゼン講座。Cuterが自らの経験を踏まえ企画・実施する学部1年生向けの講習会



● Cute.Guides

図書館がWeb上で提供する学習ガイド。「私の卒論ができるまで」「はじめての実験ノート」など、学生ならではの視点と専門知識を活かしたCuter作成ガイドを約190件公開



● 学際交流イベント

学部・学府・学年の垣根を超え学生たちが自らの研究を語り合うQuiriconや、Cuterが特定テーマについて取り上げるシリーズ企画Cuter Caféなど、さまざまなイベントで九大生の好奇心を刺激する



中村哲先生の志を次世代に 継承する九大プロジェクト

中村哲医師(1946-2019)：九州大学医学部卒。36年にわたりのメタスタンとアフガンスタンで現地の人々に寄り添いながら、医療・水事業・農業に従事した。

● メモリアルアーカイブ

「つなぐ」をテーマにした図書館内の展示空間。映像、グラフィックス、年表、書籍等で言葉と活動を伝える

● 中村哲記念講座

授業の1科目として開講。中村医師の想いを繋ぎ、未来の課題に挑戦する学生たちを深い所で支える教養を培う場

● 著述アーカイブ

中村医師の活動記録、著書・新聞・雑誌に著した文章、講演で語った言葉などを九州大学学術情報リポジトリ(QIR)で収集・公開



芸術工学図書館 (2023年6月リニューアル) 学生の創造性を育む図書館として

芸術工学部という特色ある部局との密接な連携

● 芸工らしい学びの場づくり

教員・学生とともに新しい図書館像を探り、図書館を再構築し、アクティブラーニングコリドー、映像音響ラウンジ等を新設。小規模展示、ワークショップ、個人製作の映像編集等の芸術工学部ならではの学生ニーズを取り入れる

● サイエンスプランター

学生の新たな興味の芽を育む目的で学生や教員に自身の研究を紹介してもらうセミナーリニューアル以前の2017年より30回以上の開催



イベント開催
状況とか

話題提供：

昨今のAIの進歩状況から妄想する
「これから図書館の利用者向け
サービスはどうなるのか？」

※弊学で導入予定とかそういう話では全然なく、
話題提供のための「妄想」です

専門家も驚く：AI技術の進歩速度

「AI時代において、大学図書館の在り方はどうあるべきか、特にユーザーエクスペリエンスの観点からどうあるべきか」について、5つ程度の視点を、簡潔な箇条書きで記述してください。

Q大

- AI が一人ひとりの学習履歴や専攻に合わせて資料をリコメンドし、検索結果を絞り込む「**パーソナライズ探索ポータル**」
 - AI レコメンドやセマンティック検索で“探す時間”を最小化し、発見の喜びを最大化する。
- 生成 AI チャットボットによる 24 / 7 のバーチャル・レファレンス
 - 閉館後でも自然言語で質問でき、必要に応じて司書につなぐ“**ハイブリッド窓口**”を実現。
- AI 搭載の共同学習／制作スペース（XR・データラボ・メディアスタジオ）の拡充
 - 「資料を読む場所」から「**知を共創する場**」へ転換し、実験的に AI ツールを試せる環境を提供。
- 行動ログと学習データの分析で UX を継続的に改善する「データ駆動型ライブラリー運営」
 - 利用動向を可視化し、**館内導線や電子リソースの配置を動的に最適化**。
- AI 倫理・透明性の確保と **AI リテラシー教育**の中核拠点化
 - アルゴリズム・バイアスの説明責任を果たしつつ、学生・教員へ AI の安全な活用法を継続的にトレーニング。

2025/6/16 ChatGPT o3による回答

ありがとー。でもやっぱり**自分の脳みそ（自然知能）**で、できるかぎり**ぶっ飛んだ妄想**をしてみます～

Q大

自然知能で妄想した「起こり得る変化」： 図書館の文献調査機能はDeep Researchに？

- ChatGPTのDeep Researchを使えば，サマリも出してくれる

「AI普及時代における図書館のありかた」について論じた文献を列挙し，それぞれのサマリも日本語でつけてください．

Q大

1. Chen, Xiaotian. (2023).

"ChatGPT and Its Possible Impact on Library Reference Services." *Internet Reference Services Quarterly*, 27 (2), 121-129.

- サマリ: ChatGPTを実際のレファレンス質問でテストし，簡単な情報探索には高い応答性・網羅性を示したが，出典欠落・誤情報提示の恐れも確認。司書は回答検証や倫理的判断で不可欠な役割を担い，AIは「補助ツール」と位置づけるべきと結論。[researchgate.net](#)

2. Brzustowicz, Richard. (2023).

"From ChatGPT to CatGPT: The Implications of Artificial Intelligence on Library Cataloging." *Information Technology and Libraries*, 42 (3).

- サマリ: ChatGPTでMARC/RDAレコード自動生成を試行し，定型項目は高精度で出力できると報告。省力化の可能性を示す一方，著作権・データ偏り・誤表記チェックなど「人間による最終確認」が不可欠と指摘。[researchgate.net](#)

3. Hervieux, S. & Wheatley, A. (Eds.). (2022).

The Rise of AI: Implications and Applications of Artificial Intelligence in Academic Libraries (PIL #78). ACRL.

- サマリ: 米加欧豪 20 機関の事例を収録。利用者サービス、メタデータ強化、AIリテラシー教育、ロボティクス導入まで3部構成で解説し，学術図書館が戦略的にAIを組み込むための組織変革モデルと実践ガイドを提示。[academiclib.org](#)

4. Balnaves, E., Bulttrini, L., Cox, A., & Uzwyshyn, R. (Eds.). (2025).

New Horizons in Artificial Intelligence in Libraries. De Gruyter Saur / IFLA.

- サマリ: 公共・大学・国立など多様な館でのAI活用を俯瞰。自動分類・チャットボット・研究データ管理から倫理・バイアス対策まで，最新ケースとシナリオプランニングを整理。今後10年のロードマップを示す基礎文献。[sciendo.com](#)

5. International Federation of Library Associations (IFLA). (2023).

"Developing a Library Strategic Response to Artificial Intelligence." Working document, November 2023.

- サマリ: 各図書館がAI導入方針を策定する際の検討項目を体系化。サービス革新、人材育成、ガバナンス・倫理の3領域を戦略的に整備する必要性を説く。[ifla.org](#)

6. Lo, Leo S. (2023).

"AI Policies across the Globe: Implications and Recommendations for Libraries." *IFLA Journal*, 49 (4), 645-649.

- サマリ: 米・英・EU・加・中のAI政策を比較し，図書館が直面するデータプライバシー・公平性・透明性課題を整理。各館は差別規制を踏まえたリスク評価と利用者教育を進めるべきと提言。[researchgate.net](#)

7. Pirgova-Morgan, L. (2023).

Looking towards a Brighter Future: The Potentiality of AI and Digital Transformations to Library Spaces. University of Leeds Libraries.

- サマリ: 米リズ大学図書館でのAI実証を基に，館内案内チャットボット、推薦システム、自動メタデータ付与などの効果と課題を調査。利用者・職員インタビューから，AI導入はUX向上と業務最適化に寄与するが，透明性確保が鍵と結論。[libraryofleeds.ac.uk](#)

8. 山中湖情報創造館 (2023).

「ChatGPTをレファレンスサービスのツールとして導入」(カレントアウェアネス-R, 2023-07-24)。

- サマリ: 日本の公共図書館による生成AIの先行導入事例。館蔵メタデータを学習させたGPT-4を利用し，簡易質問対応を効率化。高度質問では誤答リスクが残り，人とAIの協働体制が今後の課題と報告。[currentaffairs.jp](#)

9. 青野 正太 (2024).

「生成AIが図書館業務に与える影響（私論）」2024年度図書館学セミナー講演資料。

- サマリ: 国内文献レビューを通じ，生成AIが担える業務（広報・会議資料作成等）／部分的に担える業務（レファレンス・目録）／担えない業務（高度情報評価など）を三層で整理。司書の専門性再定義と研修の必要性を論じる。[netlib.jp](#)

10. Das, R. K., & Islam, M. S. (2021).

"Application of Artificial Intelligence and Machine Learning in Libraries: A Systematic Review." *arXiv* 2112.04573.

- サマリ: 32本の実証研究をメタ分析し，AI/MLが最も活用される領域はレコメンデーション、チャットボット、資料自動分類であると総括。理論研究偏重を指摘し，実装と評価研究の拡充を提議。[arxiv.org](#)



こういうのも見つけてくれました：
国際図書館連盟(IFLA)による「AIに対する図書館の
戦略的対応」に関する作業文書(Nov. 2023)



IFLA Special Interest Group
Artificial Intelligence

Developing a Library Strategic Response to Artificial Intelligence

Section 4: Strategic responses to AI, the pros and cons

The strategic responses to AI could include one or a combination of the following broad approaches:

1. Recruiting new staff with specialist AI skills
2. Upskilling existing staff
3. Engaging with users to see how they are using AI
4. Studying sector best practice
5. Running proof of concept projects
6. Talking to the system suppliers and buying systems
7. Aligning to what is happening in the institution
 - a. Collaborating with other units
8. Aligning to what is happening in the sector
 - a. Collaborating with other libraries and organisations
9. Adopting a wait-and-see stance



Q大

ありがと～。でも今回は、できる限り自力で妄想してみます！

自然知能で妄想した「起こり得る変化」： 「図書館＝最先端サービスの提供窓口」に

- これまでの図書館は「最先端の知」の提供窓口
- 今後は広く「最先端のサービス」の提供窓口へ！
 - 「サービス」= AI系, XR, インクルージョン技術, データ関連支援, オンライン教材のキュレーション, 学修分析, 各種コンサル, ジョブマッチング, 学友探し？
- 健全な知のための「学びの実験室」も提供
 - 「AIのせいで均質・画一化した学び」を壊すための学び
 - 「AIが作ってしまったフィルターバブル」を壊すための学び
 - 「学びたいことを学びたいときに学べる場」の提供



By ChatGPT o3



By ChatGPT o3

自然知能で妄想した「起こり得る変化」： 「図書館＝非日常的な場」としての価値

- ネットから遮断された「学習個室」
 - AIから距離を置く（AIデトックス）場
- 散策しながらモノ（書籍）を探すことの価値
 - 「探検」や「路上観察」と同類の喜び
 - 高タイパな「検索・生成」とは違う価値観の提供
- 「他者の学びが見える場」としての図書館
- グループ活動できる場
 - 今後個別学習が進み，グループ活動が減る!?
 - 様々な意見を持つ人々で構成されるリアルなグループは貴重
 - 飲食可能書店のように，大学図書館も学生食堂とつなげる？



By ChatGPT o3



By ChatGPT o3

自然知能で妄想した「起こり得る変化」： **学習サポートデスク**に期待される機能が変わる？

- ある程度自習できる学生には，人間メンターの必要性は下がるかも
 - レポートの書き方などは，AIが自動で指導・修正・評価
- **自習できない学生には，人間のメンターが引き続き必要！**
 - 学習者に「①問題意識や課題を持つ」「②問題意識や課題を言語化」「③AIの出力を吟味」の3スキルがなければ，AIは役に立たない
 - 子どもに六法全書を持たせても何も起きないのと同じ
- 結果的に，**従前よりも「メタ」な学習サポートが重要**に
 - 自習の方法，課題設定法，学んだことの正しさの検証法
- 個別自習化が進むと「**自分がちゃんと学べているか，不安に思う学生**」が出てくるかも…
 - 「大丈夫だよ，ちゃんと学べている」と安心させるメンターが必要



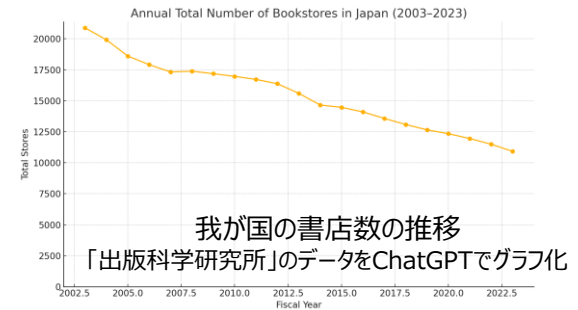
By ChatGPT o3



By ChatGPT o3

自然知能で妄想した「起こり得る変化」： 「モノとしての本」の意義が変わる？

- Retro-digitizationが進めば、すべての書籍が電子的にアクセス可能に
 - 音楽はサブスクでCDショップが消えた
 - 本屋も20年で半減
- 一方、改ざん不能な「モノとしての本」は「ファクトの最後の砦」に
 - 真偽ごちゃまぜのネット世界と隔離
 - 健全に史実を100年後に残す「資料館」的価値
- 「ちょうどよい所有感」を満たす
 - 「物理的実体としてのモノ」に、自由にアクセスできる喜び
 - レコードのアナログ盤、ポラロイドカメラ、ボードゲーム、等と同様



By ChatGPT o3



PaperTabが実用化されれば
また新たな展開が？

自然知能で妄想した「起こり得る変化」： 学術論文は「AIがお墨付き」？ → **ジャーナル不要**？

- 今後「**AI査読**」が**信頼される**ようになるかも？
 - 「実験データ＋論文」についてAIが妥当性等を評価
 - 各論文のレベルまで評価できる可能性も
- そうすると**ジャーナル頼りだった「投稿→査読→出版」プロセスが過程が不要に**？
 - 著者それぞれで「AI査読→グリーンOA」で事足りる？
 - 電子ジャーナルのコスト増問題が解決？
- ただし問題も..
 - 「**AIが査読する**」世界は本当に健全か？
 - 査読は面倒だが研究者にとっては学びの場でもある…
 - AIをハックして、不当に高評価を狙う論文が出てくる？
 - 斬新な研究については評価が不安定に？
 - これは人間も同じ…？



By ChatGPT o3